

2023年度 自己点検・自己評価結果について

2024年3月

関西看護専門学校 看護専門課程 看護学科

目次

1. はじめに	1
2. 2023 年度自己点検・自己評価結果	2
3. カテゴリーごとの総括評価	
I. 教育理念・目的・育成人材像	3
II. 学校運営	3
III. 教育活動	3
IV. 学修成果	4
V. 学生支援	4
VI. 教育環境	5
VII. 学生の募集と受け入れ	5
VIII. 財務	6
IX. 法令等の遵守	6
X. 社会貢献・地域貢献	6
4. おわりに	6

1.はじめに

1975年に本校の前身である関西准看護学院が開校した。関西看護専門学校は、設置母体である社会福祉法人枚方療育園が経営する施設及び関連病院で活躍できる看護師を育成することを目的として、1980年に開設された。また、本校の教育理念である「やさしい手と確かな目で、大切ないのちを護る人を育成する」ため、感性豊かな人間性と専門職者としての主体性を養い、社会福祉に貢献できる創造性ある看護実践者を育成することを目指し、日々教育活動にあたっている。そして、これまでに多くの卒業生を輩出してきた。

本校は、専修学校の教育水準の維持・向上と社会的使命を達成するために、2010年に自己点検・自己評価委員会を立ち上げ、2017年度末に結果公表へと歩みを進めた。

更に、2021年度より自己点検・自己評価指針を、厚生労働省ガイドラインから文部科学省ガイドラインに準拠した指針に変更し、3度目の自己評価結果を公表した。

加えて、2022年度は自己評価の客観性・透明性を高め、より良い改善方法を模索するために、学校関係者評価の実施に踏み切り、結果を公表した。また、下記の重点目標に対する取り組みについて、学校関係者評価委員から意見を受け、改善を進めてきた。

【重点目標 1】 資格・免許取得率及び関連施設への就職率向上

【重点目標 2】 受験者数の向上及び確かな学力を有する入学生の確保

重点目標 1 に対する成果は評価項目Ⅳの【学修成果】、重点目標 2 に対する成果は評価項目Ⅶの【学生の募集と受け入れ】である。また、2022年4月からは第5次カリキュラム改正により新カリキュラムが適応されて2年が経過する。今回、2023年度自己点検・自己評価を実施したため、その結果について報告を行う。

2. 2023 年度 自己点検・自己評価結果

表1 自己点検・自己評価結果（2021 年度/2023 年度）評価点/3 点満点

項目	2021 年度	2023 年度
I. 教育理念・目的・育成人材像	2.37	2.63
II. 学校運営	2.43	2.31
III. 教育活動	2.63	2.56
IV. 学修成果	2.29	2.31
V. 学生支援	2.24	2.31
VI. 教育環境	2.44	2.34
VII. 学生の募集と受け入れ	2.60	2.58
VIII. 財務	2.17	2.34
IX. 法令等の遵守	2.26	2.56
X. 社会貢献・地域貢献	2.11	2.21

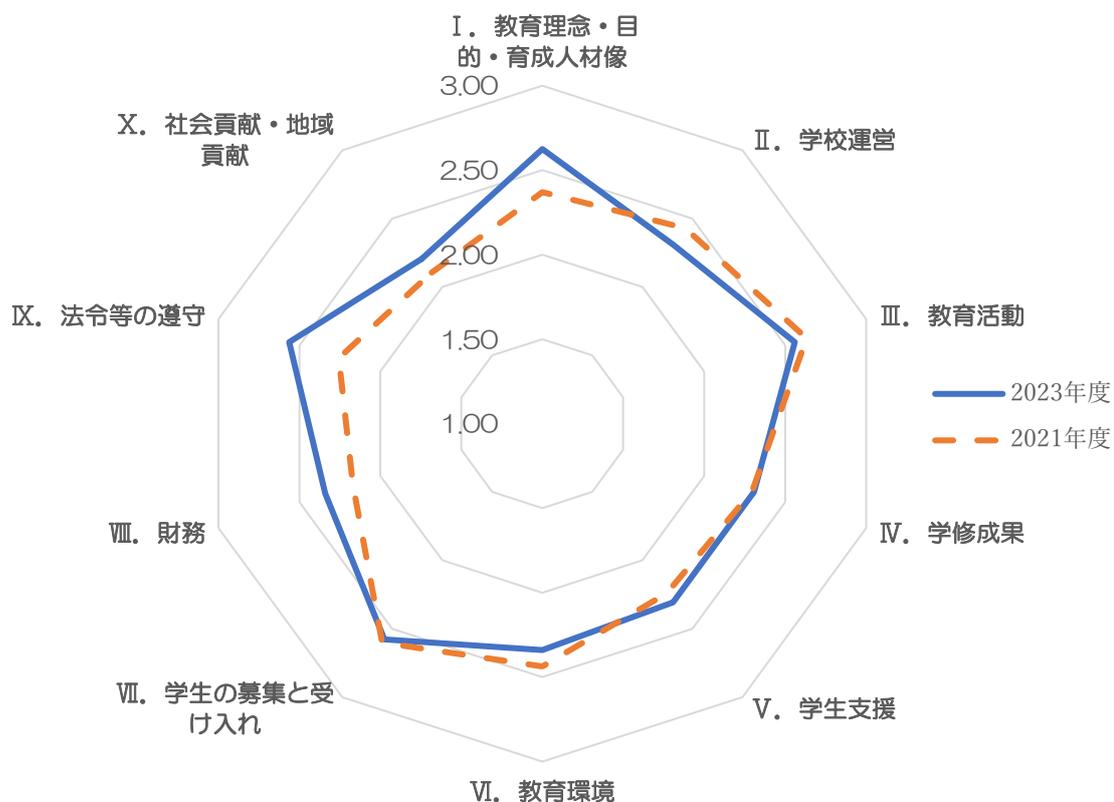


図1 2023 年度 自己点検・自己評価結果（2021 年度/2023 年度比較）教職員

3. カテゴリーごとの総括評価

I. 教育理念・目的・育成人材像

教育理念については明確に定めている。新カリキュラムに向け、本校の設立目的を意識した教育目的・目標（育成人材像）を設定し、社会人基礎力を基盤とした「めざす学生像」も明確に定めている。また、カリキュラム改正にあたり、本校の理念の特色がより強化されたカリキュラム構築や地域及び関連施設のニーズを反映したカリキュラムを実施している。2023年度より、産学連携のために、関連施設での臨床指導者会、教育担当者会、教育委員会に参加することで、社会のニーズを踏まえた本校の将来構造が、より明確になるよう取り組んでいる。更に、講師・臨地実習指導者会では本校の将来構想を実習病院施設の指導者や講師に配信し、新カリキュラム改正後も社会及び関連施設のニーズを常に把握し、継続した評価の実施を目指していきたい。

II. 学校運営

毎年、事業計画の執行・進捗管理状況の見直しを行い、理念等、教育目標、事業計画を踏まえ、運営方針を明確に定めている。前回より得点が低下している理由として、教職員の意欲や資質向上を図るための取り組みが、業務に追われ不十分なことが要因と考える。そのため、今年度より業務改善や意思決定システムの強化を図った。変更時における教職員の困惑等が一時的に得点を低下させる要因にもなっているが、今後の活用により周知が進むと考える。更に、今後は、情報システムの汎用性を高め、業務の効率化を図っていく。

III. 教育活動

教育理念に沿った教育課程の編成・実施方針を定め、社会人基礎力を土台とした3年間の長期的ルーブリックを構築し、学年ごとの修業年限に応じた教育到達レベルを明確にして運営している。学校全体としては、ここ数年間はコロナ禍の影響はあったものの、ICTを活用した授業展開や実習代替のためのシミュレーション実習に切り替えたことによって、成果を残すことができた。新カリキュラム導入時の2022年度入学生から活用しているビジョン・ゴールシートを用い、個々の学生が自身の成長と課題を捉えて主体的に学習できるよう支援している。そのため、1年次よりチューター制度を活用し、より個別的な支援の実現ができるよう体制を整えている。加えて、1年次からの異学年交流を通して、先輩から「学び方」に対する姿勢や具体的なアドバイスを受けられる機会を設けることで、学習方略の支援に努めている。その関わり自体が、互いのメタ認知力向上に繋がると考えるため、今後も継続していきたい。

教員の資質向上に関しては、実施されている教育活動に対して授業評価、研究授業・協議会の取り組みを行っており、教育方法の見直しや活用の検討を継続して行っている。授業改善から教育課程を広く評価する視点を持ち、教育の質の向上に努めたい。更に、目標管理の実施、研修会の参加、研究活動の推進、教員間のピアサポートチーム活動、校内講演会などの機会を通して、自己・相互研鑽できる仕組みをより活性化し、継続的に取り組んでいきたい。

また、今年度より「海外の学会参加、海外施設交流など、英語が使えるよう支援

する」目的で、教員の英会話学習が導入され、教員のキャリア形成の支援体制を整えている段階である。

IV. 学修成果

本校は、3年間の修業年限を終了した上で看護師国家資格を取得し、社会福祉に貢献できる看護師を育成することを目的としている。資格・免許の取得率は90%前後を推移している。1年次の成績が3年間の成績と相関があるという結果から、1年次の成績状況が国家試験の合格にも直結しやすい傾向にある。本校の教育の特徴として、成績低迷者に対する支援時間が多く、中間層以上の成長を促す機会が失われがちである。そのため、それらの学生が抱える課題の見極めも遅れる傾向にある。このことから、学生の学習能力を引き上げるための教育力の向上が課題であると考えられる。今年度は、昨年の学校関係者評価委員会で検討した内容に、1年次から取り組んできた。

【重点目標1】資格・免許取得率及び関連施設への就職率向上

《目標値》 ①関連施設への就職率60%以上を維持する

②看護師国家試験の全員の合格を目指す

《課題改善に対する取り組み》

i 学生の特性に応じた面接、個別の課題に対する学習方略の支援

ii 目標管理シート等を活用し、成長実感や看護への動機づけ・意味づけの支援

iii 教員間で学生情報の共有を密に行い、学習支援の方向性を同じくするなど、就職に関しても、チューター面接を中心とした個別支援を行ってきた。

昨年度の卒後進路状況においては、枚方療育園関連施設に約60%、実習関連施設に約30%就職となっており、卒業生の約90%が本校の設置目的である「枚方療育園及び実習関連病院への就職」に結びついていることが分かる。このことは、入学前までの広報活動や奨学貸付金制度の仕組みから、本校の設置目的や設置主体である枚方療育園の社会福祉の理念が広く周知された結果であると言える。また、実習場が多岐にわたるため自分に合ったキャリアデザインを描きやすい環境にあること、枚方総合発達医療センターでの在学中の実習経験数の多さなどが、本校の設置目的や卒業生として自分が担う役割を自覚することにつながっていたと考える。そのため、卒業生の就職状況の把握をすることが重要であり、今後は卒業生の社会的評価の把握、看護基礎教育の到達度が測定・評価できる仕組み作りに取り組みたい。

V. 学生支援

学校生活が継続できるよう経済的支援、健康管理、学習環境の提供に努めている。関西看護専門学校奨学貸付金制度を設け、その他の公的奨学金制度の相談・手続き等、修学に必要な経済的側面への支援体制を整えている。また、遠隔地から就学してくる学生に対して学生寮（女子のみ）を完備し、学習に集中できる環境を提供している。スクールカウンセラーや、設置主体である枚方総合発達医療センターの医師を校医として配置し、心身ともに健康管理を行うための体制を整えている。また、入学前説明会をWeb配信で2回実施し、入学直前説明会も同様に行っている。入学後は各種情報提供や、学校生活の様子などの情報共有を必要に応じて保護者に連絡や面談を実施することで、保護者と教員の連携を図るよう努力している。

卒業生においては、再就職及びキャリアアップ等について、卒後の相談に適宜応じている。新卒生は卒後3カ月をめぐりにホームカミングデーを開催し、就職後の状

況確認や相談ができる体制を整えている。今後の取り組みとして、看護師免許以外の資格取得の推奨や、学生の成果を可視化できるシステム作りの導入、ティーチングアシスト（TA）制度を活用していくことで、学生の学習環境を整えていきたい。

最後に、課外活動に関しては、クラブ同好会があり、異学年及び卒業生が交流できる活動を行うことで、感性を豊かにする機会を設けている。

VI. 教育環境

学校の施設・設備は関連法令等の基準を遵守している。昭和 50 年の設立から、校舎の老朽化の問題が生じており、特に設備への不備が多く、冷暖房の老朽化に伴う学習環境の悪化が生じている。環境を精査し、修理・改築などの対応を行っているが対応が追い付かず、本校舎では限界がある。2024 年度に新校舎が開設するまでは、メンテナンスを実施しながら安全に、快適に学習できる環境を整えるよう努力している。新校舎に向けて、教育上の必要に応じた教材・教具については、高機能シミュレーター、各種モデル人形、診察器具など保健師助産師看護師学校養成所指定規則に基づいて整備している。

学外実習においては、指導者との連絡・協議の機会を設け、教育目的や学生指導に関する情報共有と意見交換を行っている。2021 年度から年 1 回の講師・臨地実習指導者会を開催している。実習施設及び非常勤講師に本校の教育方針について、ご理解ご協力を頂いた上で、一貫した教育が提供できるよう努力していきたい。

海外研修については、感染拡大の影響を受け、ここ数年実施に至っていなかった。しかし、今年度は、希望者に対してベトナム研修を再開することができた。研修では、他国の文化や社会的背景に視野を向け、医療及び福祉機関の視察、現地交流など貴重な体験を得る機会になっていた。海外研修終了後は、研修発表の場を設けることで、他学生に対しても学びの共有を図っている。

また、学内における安全管理・防災に対する組織体制は適切に運用されている。特に、防災に関しては、毎年の防災訓練の実施と地域の防災祭りに参加することで、より一層防災への意識が高まると考えている。今後は、看護師を目指すものとして、被災者支援の視点でも意識を高めていけるよう取り組んでいきたい。

VII. 学生の募集と受け入れ

オープンキャンパスの開催、各進路ガイダンスへの参加、Web による広報、ホームページによる学生募集活動を行っている。こちらも、昨年の学校関係者評価委員会で検討した内容に取り組んできた。

【重点目標 2】受験者数の向上及び確かな学力を有する入学生の確保

《目標値》 ①各入試選考での受験倍率 2 倍を確保する

《課題改善に対する取り組み》

- i 効果的な広報媒体として、新たに SNS 広報の活用
- ii 現行のオープンキャンパスに放課後オープンキャンパス・学外でのホテルオープンキャンパスを追加
- iii 看護学校で学ぶために必要な学習量や専門職者として求められる倫理観・規則、看護学校生活の実際に触れることをオープンキャンパスへ反映
- iv 保護者目線で考えた情報や校風が伝わりやすいような内容の追加やホームページ・パンフレットの改訂
- v 高校との連携を強化するなど改善を図り、広く本校の魅力を周知できるように活

動してきた。しかし、目標値である各入試選考での受験倍率2倍は厳しい現状にある。選考に関しては、入学基準・多様な選考方法を定め、適切に実施している。次年度に向けてはAO入試を導入し、今後も社会の現状や受験生のニーズに沿った入試選考となるよう、組織的に評価できるシステムを構築している。

また、広報活動として今年度は、在校生が出身高校を訪問することで、訪問先の進路指導教員と対話ができ、関係性の構築に繋げることができた。今後は、指定校の進路指導教員との関係構築を行い、受験生の質の確保を目指すと共に、学生募集の向上に繋げていきたい。

VIII. 財務

大阪府と設置主体である社会福祉法人枚方療育園からの支援を受け、適切に運営している。

IX. 法令等の遵守

専修学校設置基準において、保健師助産師看護師学校養成所指定規則に則り、運用している。隔年で継続して自己点検・自己評価を実施し、ホームページ上への公表を行っている。また、令和5年5月に「看護師等養成所の運営に関する指導ガイドライン」の一部改正に伴い、ハラスメント防止等に関する規程の整理を行った。

X. 社会貢献・地域貢献

地域交流の一環として、地域住民からの声を参考に清掃ボランティアなど、学生主導で取り組んできた。しかし、感染拡大の影響を受け、主体的な活動はここ数年制限されている。学生に、ボランティア活動の意義を伝え、奨励することは学生の社会性を育む上で必要なことである。ボランティア活動等の社会活動について、学校として地域貢献の意も含め、現時点では地域との交流、連携を強化している段階である。今後の活動を評価していきたい。

4. おわりに

今回の点検・評価の結果は、2021年度の自己点検・自己評価の結果を踏まえ、低かった項目を重点的に取り組み、徐々に改善してきていると評価する。残された課題については、適切な学校運営に反映できるよう引き続き努力して取り組んでいく所存である。今後も、地域から愛される看護学校を目指して、本校としての組織的・継続的な改善を図ることを目的に、自己点検・自己評価を行っていき、より良い教育ができるよう尽力していきたい。

2024年3月
関西看護専門学校
自己点検・自己評価委員会